
魔法少女リリカルなのは オリ主は適合者

シーザス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは オリ主は適合者

【Nコード】

N2546Z

【作者名】

シーザス

【あらすじ】

気が付けば、自分以外に何もない光の中にいた少年。

少年は、選ばれし者、ロックマンのうちの一人だった。

注意：これの主人公はオリ主です。一応、オリキャラ出しますが、オリジナルのライブメタルも少々（もしかしたらずっと）出没する

かもしねませんので「注意」を。

* 「何処だここー！ー！ー！ー！ー！ー！」

僕は大声を上げた。

* へつるせえ！！！！ アベル！！ 今、何時だとおもってんだ！！
近所迷惑だぞ！！！！

そして怒られた。

アベル「ご、ごめん・・・モデルF」

モデルFとは「ライブメタル」と呼ばれる意思を持った金属である。

何故、意思を持っているかは全くの謎である。

「ライブメタル」には各々種類がある。

モデルX：青い「ライブメタル」

モデルZ：赤い「ライブメタル」

モデルH：緑色の風の「ライブメタル」

モデルF：オレンジに近い赤色の炎の「ライブメタル」

モデルL：水色に近い青色の氷の「ライブメタル」

モデルP：紫色の影の「ライブメタル」

モデルA：白が基準の「ライブメタル」

モデルO：赤紫の「ライブメタル」

一応、全部僕が所持している「ライブメタル」だ。

モデルXとモデルZは二人の親友から託された「ライブメタル」。

モデルH、モデルF、モデルL、モデルPは一度、盗まれてしまっただが、取り返した「ライブメタル」。

モデルAは遺跡で見つけた「ライブメタル」で相棒。

モデルOは物凄く強い敵を倒して、手に入れた「ライブメタル」で二つ目の相棒。

アベル「しかし、本当にどこなんだろ・・・ここ」

*《わからんな》

アベル「モデルO！」

モデルO《ガーディアンベースとの通信はおろか、ハンターキャン
プにすら通信が繋がらない。この光が妨害電波を発信しているの
だろう。》

アベル「だよな。ちよつと攻撃してみよう！モデルX！モデ
ルZ！」

モデルX《うん。》

モデルZ《任せろ》

アベル「ダブルロック・オン！！」

モデルX、モデルZ《適合者確認・・・R・O・C・Kシステム
起動開始》

アベル「うおおおおお！！！！」

僕は光に包まれて変身した。

光が収まり、出てきたのは赤が基準のボディに長い金色の髪、右手にはバスターとセイバーの両立を行える武器、ZXセイバー、ZXバスターを扱うモデルZXに変身した。

アベル「うおおお!! チャージ・ショット!!!!」

ZXバスターから放たれたチャージ・ショットは白い光に直撃したが、

アベル「・・・!!」

白い光にはかすり傷1つついてはいなかった。

アベル「そんな・・・!!?」

モデルF《おもしれえ・・・!! アベル! 俺を使え!!》

アベル「うん! モデルFロック・オン!」

光に包まれて変身した。

光が収まり、次に現れたのはオレンジが基準のボディの両手には二丁のナツクルバスターを装備した姿、ロックマンモデルFXに変身した。

アベル「グラウンドブレイク!!」

ナツクルバスター『右』の銃口を地面に向けて撃ち込んだ。

撃ち込まれた弾丸は炎に変わり、火柱となり、光に直撃した。

ゴゴゴゴゴゴ

アベル「どうだ!?!」

モデルF《なあっ!!?!》

モデルX《そんなバカな・・・!!》

やはり、白い光にはかすり傷1つついてはいなかった。

モデルO《モデルFのパワーでかすり傷1つつかないとなると．．．
私の力でも破壊までは至らないであろうな．．．》

アベル「どうしたらいいんだ．．．!!」

*《それはな、壊すんじゃないで、力を示すのさ。》

アベル「．．．!!」（この声．．．まさか．．．!!）なんで．．．？
どうして．．．また会えるんだよ．．．？　なあ、ヴァン．．．!!」

僕は振り返りながらその人物の名前を叫んだ。

ヴァン《ははは。　まあ、確かに、あの瞬間、俺とエールはお前を庇って死んだ。　それで、俺達の体は「光」になってお前の中に入った。　そこまでは覚えてるな?》

アベル「覚えてる．．．じゃあ、やっぱり、僕は死んだのかよ!!」

エール《違うわ。　正確には、貴方は今、生きるか死ぬかの境目にたたされているのよ。》

アベル「エール……！」

ヴァンの隣には、もう一人の親友、エールがいつの間にかいた。

アベル「生きるか死ぬかの境目……？　ワケわかんないよ……
！！」

ヴァン《……モデルX、モデルZ、モデルH、モデルF、モデルL、モデルPのパスコードを入力しろ。》

モデルX《わかった。　みんな、パスコードの入力を》

モデルH《　わがコトノハは　かぜとなり
空をめぐる……

… ウェントス・アルス… 》

モデルL《わがコトノハは　水となり
大地をうるおす…

… グラキエス・パツシオ… 》

モデルF《わがコトノハは　ほのおとなり

命をもやす…

…フランマ・ウィース…》

モデルP《わがコトノハは かげとなり
ちゆうぎをちかう…

…ウンブラ・プロフェス…》

モデルX《わがコトノハは ヒカリとなり
ムゲンのかのうせいを てらす…

…ルーメン・インフィニタス…》

モデルZ《わがコトノハは 勇気となり
しんねんを ささえる…

…フォルティトワード・クレド…》

白い光にそれぞれのライブメタルの色の光が注がれる。

白い光は七色に輝き始めた。

ヴァン《…これで、いつでもこの光の中に入ることができる。

この光の中に入れば、お前は今までとは違う世界に行ってしまう
だろうな。》

エール《だけど、あんたなら大丈夫。どんな困難だろうと、きつと、乗り越えていける。だから．．》

ヴァン、エール《進め。その先を．．信じて．．》

二人は光になって僕の中に入っていった。

アベル「ヴァン、エール．．わかった。進むよ。この先へと！！　そして、どんな困難にも立ち向かっていく！！」

僕は光に歩みを進めて、光の中に入った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2546z/>

魔法少女リリカルなのは オリ主は適合者

2011年12月9日01時07分発行